

平成29年度行政事業レビューシート(厚生労働省)

事業名	能力開発基本調査			担当部局庁	人材開発統括官		作成責任者		
事業開始年度	平成18年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	参事官室(人材開発政策担当)		参事官(人材開発政策担当) 波積 大樹		
会計区分	一般会計								
根拠法令(具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	-				
主要政策・施策	-			主要経費	社会保障				
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	国内の企業、事業所及び正社員以外を含めた労働者の能力開発の実態を明らかにするための広範囲でかつ精度の高い調査を実施し、能力開発全体の今後の施策を検討するための基礎資料とする。								
事業概要(5行程度以内。別添可)	民間企業を対象とした「企業調査」、事業所を対象とした「事業所調査」及びその従業員(正社員及び正社員以外)を対象とした「従業員調査」をアンケートにより行い、これまでの結果とも比較し、主要産業における民間事業所の教育訓練の制度及び実施状況を取りまとめる。								
実施方法	委託・請負								
予算額・執行額(単位:百万円)	予算の状況	当初予算	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度要求		
		補正予算	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-			
		計	49	49	49	49	46		
	執行額	48	47	46					
	執行率(%)	98%	96%	94%					
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	98%	96%	94%						
平成29・30年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算目	29年度当初予算	30年度要求	主な増減理由					
	職業能力開発支援事業委託費	49	46						
	計	49	46						
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 -年度	目標最終年度 29年度
	企業、事業所及び労働者の能力開発の実態を明らかにするため精度の高い調査を実施する。	回収率	成果実績	%	企業58.9、事業所69.3、個人45.8	企業54、事業所70.2、個人42.7	企業58.7、事業所70.9、個人46.3	-	-
		目標値		%	企業60、事業所70、個人60	企業60、事業所70、個人60	企業60、事業所70、個人60	-	企業60、事業所70、個人60
		達成度		%	企業98.2、事業所99.0、個人76.3	企業90、事業所100.2、個人71.2	企業97.8、事業所101.3、個人77.2	-	-
根拠として用いた統計・データ名(出典)	調査票の有効回収率								

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込
	調査票配付数	活動実績	枚	企業7,228、 事業7,081、 個人21,162	企業7,200、 事業7,041、 個人23,878	企業7,343、 事業7,177、 個人23,971	-	-
		当初見込み	枚	企業7,228、 事業7,081、 個人28,963	企業7,200、 事業7,041、 個人28,169	企業7,343、 事業7,177、 個人29,496	企業7,343、 事業7,177、 個人29,496	企業7,343、 事業7,177、 個人29,496

単位当たり コスト	算出根拠		単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込	
	単位当たりコスト= X/Y	単位当たり コスト	円	2,547	2,470	2,261	2,261	
	X: 予算執行額 Y: 有効回答数	計算式	X/Y	48,060,000/ 18,869	46,980,000/ 19,019	46,332,000/ 20,494	46,332,000/ 20,494	

政策評価、経済・ 財政再生アクション・ プログラムとの関係	政策	多様な職業能力開発の機会を確保すること(V-1)								
	施策	多様な職業能力開発の機会を確保し、生産性の向上に向けた人材育成を強化すること(V-1-1)								
	測定指標	定量的指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度	
		実績値	実績値	-	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	-	
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
	民間企業を対象とした「企業調査」、事業所を対象とした「事業所調査」及びその従業員(正社員及び正社員以外)を対象とした「従業員調査」をアンケートにより行い、これまでの結果とも比較し、主要産業における民間事業所の教育訓練の制度及び実施状況を取りまとめる。正社員以外を含めた労働者の能力開発の実態を明らかにするための広範囲でかつ精度の高い調査を実施し、能力開発全体の今後の施策を検討するための基礎資料とする。									
	改革項目	分野:	-	-						
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 - 年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
		成果実績	成果実績	-	-	-	-	-	-	
目標値			-	-	-	-	-	-		
達成度	達成度	%	-	-	-	-	-			
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 - 年度	28年度	29年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度		
	成果実績	成果実績	-	-	-	-	-	-		
		目標値	-	-	-	-	-	-		
達成度	達成度	%	-	-	-	-	-			
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係										

事業所管部局による点検・改善

国費投入の 必要性	項目	評価	評価に関する説明
	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	・本調査は、社会経済や就業構造に変化が生じ、人材育成の重要性が増している中、企業の人材育成や労働者の能力開発等に係る実態を的確に把握するために実施しているものであり、社会のニーズを的確に反映している事業といえる。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	・本調査は、全国の企業、事業所及び労働者の能力開発の実態を明らかにし、国の各種職業能力開発行政の展開の基礎資料とするため、国が主体で実施する必要がある。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	・社会経済や就業構造に変化が生じ、人材育成の重要性が増している中、時宜に合った適切な行政を展開するためにも優先度が高い調査といえる。

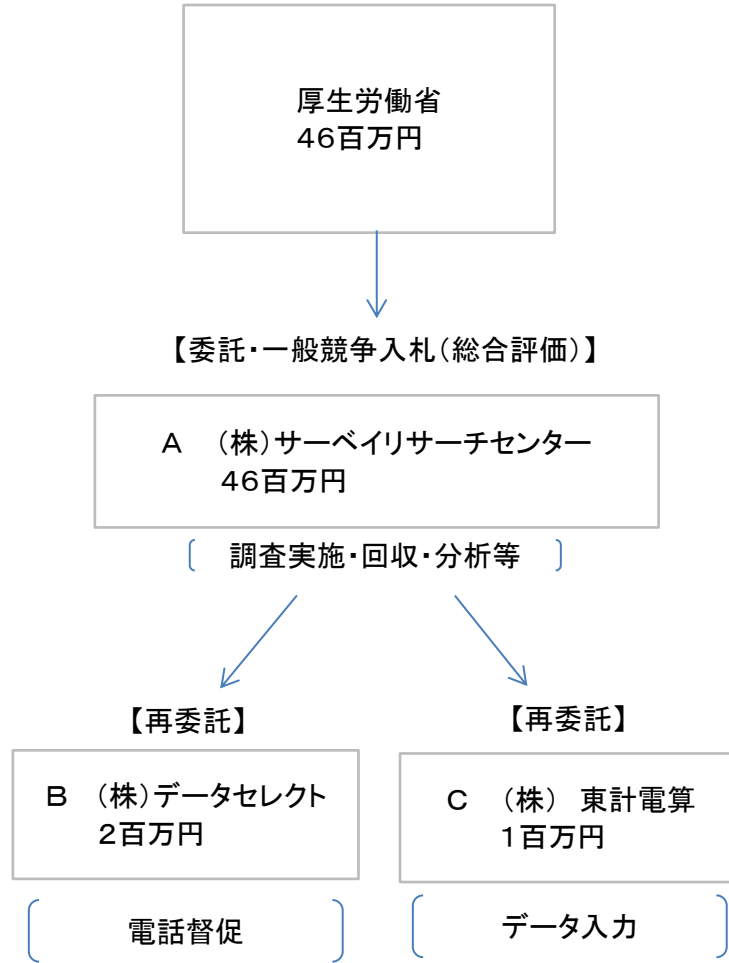
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	・平成29年度は評価項目等を見直し、より要件を緩和したところであり、公共サービス改革法に基づく民間競争入札の対象事業として、より複数事業者が参入しやすい調達としたところである。					
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	有						
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無						
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	-					
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	・回収率の向上を図ることにより、単位当たりのコスト削減に努めている。					
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	・調査関係書類の印刷等業務やデータ入力など専門的な機材やノウハウが必要な業務のみ外部委託しており、中間段階での支出は合理的である。					
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	・精算報告書等により費目・使途が事業目的に必要なものに限定されているか確認している。					
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-						
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-						
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	・調査を実施する上で、オンライン回答ができる旨を広く広報することにより、調査票返送費用等の削減や効率化を図っている。						
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	△	・事業所調査は目標値を達成し、企業調査は目標値に近い成果実績となっているが、個人調査の成果実績は目標値と約14%ポイントの差が生じており、目標に至らなかった。					
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	・入札(総合評価落札方式)で、複数者から提案を受けた中で、最も評価点の高い業者を委託先として選定していることから、他の手段と比較して実効性が高い手段といえる。					
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	・活動実績は、当初見込みと比較しても概ね達成できたと理解している。					
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	・調査結果報告については、省内関係部局、都道府県労働局、審議会委員等に情報提供し、活用を図っている。					
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>所管府省名</th> <th>事業番号</th> <th>事業名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	所管府省名	事業番号	事業名				
所管府省名	事業番号	事業名						
点検・改善結果	点検結果	<p>成果実績である回収率については、企業調査、事業所調査、個人調査それぞれ前年度に比べて上昇したが、事業所調査は目標値を達成し、企業は目標値に近い成果実績となっているが、個人調査の実績は目標値と約14ポイントの差があるので、特に個人調査の回収率を上げることが課題である。</p> <p>活動実績については、企業及び事業所調査は目標値と同程度の実績となっているが、個人調査の調査票配布数が見込みに対して約81%の実績であるため、個人調査の配布実績を増やすことが課題である。</p>						
	改善の方向性	<p>事業による効果や執行実態については、月1回程度で行った受託業者との定例会や事業結果報告書により把握分析を行った。</p> <p>課題としては、上記点検結果にもあるとおり、回収率の向上である。個人調査の調査票配布数の向上も事業所調査の回収率向上が関係していることから、回収率の向上を図るため、受託業者との緊密な連携を図りながら、督促の強化や、オンライン調査のより効果的な実施などの対応を行う。</p>						
外部有識者の所見								
点検対象外								
行政事業レビュー推進チームの所見								
改一 善部	内事 の容 業	改善の方向性に記載のとおり、課題に係る要因を分析し、改善を図ること。						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況								
討 を改 内年 検善 に度	改善の方向性に記載のとおり、課題に係る要因を分析し、改善に努めてまいりたい。							
備考								

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	372	平成23年度	336	平成24年度	290	
平成25年度	579	平成26年度	585	平成27年度	590	
平成28年度	585					

※平成28年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)



費目・使途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A. (株)サーベイリサーチセンター			B. (株)データセレクト		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
事業費	アンケート調査票の印刷、データ集計等	34	事業費	電話督促	2
人件費	受託事業者職員等に係る給与等	7			
消費税		3			
管理費	光熱費等	2			
計		46	計		2
C. (株)東計電算			D.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
事業費	データ入力	1			
計		1	計		0

